

## 第2回 宇都宮市学校教育推進懇談会 会議録

- 日 時 平成23年10月4日(火) 午後3時00分～午後4時30分
- 会 場 教育委員室(本庁舎13階)
- 出席者  
委 員：長谷川武士 副会長，小野口睦子 委員，板橋英忠 委員，地神久郎 委員，  
伊藤三千代 委員，長谷川勝比古 委員，田中政男 委員，綱川 浄 委員  
事 務 局：教育長，教育監，教育企画課長，教育企画課地域学校園担当主幹，  
学校管理課長，学校教育課長，学校健康課長，生涯学習課長，文化課長，  
スポーツ振興課長，教育センター所長，  
学校教育課課長補佐，学校教育課指導グループ係長 ほか
- 傍聴者 なし
- 会議経過
  - 1 開会(学校教育課課長補佐)
  - 2 副会長あいさつ
  - 3 議題
    - (1) 説明事項(説明：事務局)
      - ・ 第1回宇都宮市学校教育推進懇談会の主な意見について
    - (2) 協議事項(説明：事務局)
      - ・ 推進計画【改定版】(案)について
  - 4 その他
    - ・ 義務教育終了時の目指す生徒の姿について
    - ・ 今後の日程として，第3回懇談会平成24年1月13日の開催予定

### <委員からの主な意見・質問等(要旨)>

3 議題(1)説明事項第1回宇都宮市学校教育推進懇談会の主な意見について

・ 委員からの質問などは特になし

3 議題(2)協議事項 推進計画【改定版】(案)について

#### 【資料1について】

板橋 委員：前回の会議資料から語句を変更したのはなぜか。

事 務 局：児童生徒の姿が見えるような一般的な用語の使用とともに，本計画は推進から充実の段階に進んでいると考え改善した。

#### 【資料2について】

板橋 委員：前回の会議資料から施策事業の順序が入れ替わり，市全体に関わるものが先に示され，その上で学校の自主・自律的な取組というつくりになっているのはなぜか。

事 務 局：柱3では，(1)として「薬物乱用防止」を示していたが，「元気な体をつくる」に替えるなど，全児童生徒に関わるものを前に示すこととした。

小野口委員：一人の教員が複数の学校での指導を行っていると聞くが，ストレスなどは生じないのか。

事 務 局：県の制度として，初任者教員指導のために，専門性の高い教員が複数

の学校を巡回しており、これらの教員からの声は、校長などを通して受けている。

伊藤 委員：ほとんどの指標は中学校3年生徒を対象とした目標値であるが、柱5の指標は全児童生徒が対象となっている。この理由と、現状値94.1%という数字に対する認識を聞きたい。

また、柱1の指標である社会体験学習満足度の現状値は、具体的にどのような質問により得たものなのか。本事業を、何年間か実施してきたことを踏まえ、充実したものとなるよう生徒に目標をもたせるとよい。

事務局：柱5の指標は全教員に関わるものであることから、全児童生徒を対象とした調査結果の数値を指標とした。さらに、現状値は高いものであると考えるが、重要なものであることから100%を目指すこととした。

また、社会体験学習についての現状値は、「機会があれば再び職業体験に参加したいと思うか」という質問により得た数値である。

板橋 委員：今は、教員が手取り足取り児童生徒を指導することが多すぎるのではないか。全校が同じ指導を行うための市共通カリキュラムがあればよいだけでなく、地域学校園ごとに、特色ある取組として、児童生徒が一人で問題を見つけ、探求するような学習を重視することがあってもよいのではないか。

事務局：柱6の地域学校園としての特色づくりなどで取り組んでいく。

綱川 委員：柱1で示されている今日的な課題の内容がこれだけでよいのか。生徒には、問題解決能力を最終目標とした思考・判断が不足している。ぜひ、問題解決の学習を重視する姿勢を市として打ち出してほしい。

また、教員の指導力向上には、指導主事の訪問指導による専門性の向上が必要である。

田中 委員：目標値100%が多すぎるのではないか。例えば、「いじめの解消率」や「はしの持ち方」は困難であり、100%が可能なのは耐震化のみではないか。教職員が趣旨を理解できるように、指標の目標値設定の理由を示してほしい。

板橋 委員：意気込みとして、100%は示すべきと考える。

長谷川委員：指標がお題目になってしまえば意味がなく、実現可能な目標として数値を示すとよい。指標達成のためには、教職員に余裕が持てるよう取り組むことが必要だと考える。

地神 委員：教職員一人一人が目標を持つための評価などは行われているのか。

事務局：教職員の目標設定及び管理職による評価などの教職員制度を実施し、その定着が図られている。また、平成20年度より学校評価を行い、地域の方からの評価などもいただき、改善に役立てている。

板橋 委員：教職員に余裕がないため、教員相互の授業評価などは難しいのではないか。教員が相互に授業を見合うなどの取組の後押しをしてほしい。

また、共生を大切にした教育の推進により、よりよい社会づくりの一員を育てるため、各団体・部署で取り組んでほしい。